

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年6月11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200702		
法人名	トータル・メディカル津沢株式会社		
事業所名	グループホーム ひだまり街なか		
所在地	富山県高岡市博労町5番13号		
自己評価作成日	平成30年5月12日	評価結果市町村受理日	平成30年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

24時間体制の医療との連携をとり、健康面でもサポート、利用者様が落ち着いて自分らしく過ごせるように努め、家族さんとの関係も考慮し円満な関係を構築する。家族、身内、お友達等が気軽に面会に来れるグループホーム。2つの自治会に属し、互いに協力しながら地域貢献をする。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成30年5月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者が歩んできたこれまでの人生を敬い、一人ひとりの生活歴や習慣を大切にされた支援に努めている。近くの神社まで散歩したり、天候を見ておとぎの森公園に出かけるなど、暮らしの中に楽しみごとを取り入れるよう心がけている。また、自治会の役員から様々な情報や助言を得たり、事業所として街並みの花づくり運動に協力するなど、地域の人達と支えられたり支えたりする関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホーム ひだまり街なか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は玄関に掲示してある。カンファレンス等を通じ職員の意識を高めているが満足できるレベルではない。	申し送り時やカンファレンスの際に、理念を確認し、日々のケアにあたり、理念の実践につながるよう心がけている。	今後は、理念に書かれている意義を職員全員で理解し、日々のケアに具体的につなげることが期待される。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者と主任は地域の事業には極力参加している。今年は、まちかどサロンの竣工式に利用者2名と一緒に参加した。又、慰問などの時に民生委員さんも見学に来てもらっている。	地理的に2つの自治会に属し、どちらの自治会とも交流し、事業所の屋外避難階段の雪の捨て方などの助言を得たり、地域の花づくり運動に協力するなど、地域とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内では、認知症の研修も行っているが、地域の方には活かせてないのが現状。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やグループホームの情報を詳細にお伝えし、評価や意見をもらっている。指摘された点はすぐに修正する。又、地域の情報も聞かせて頂き参考にさせてもらっている。	自治会からは水害時の避難先、民生委員からは民生委員会の内容、家族からはホームページの照会などの意見が出され、事業所のサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の高齢介護課には問題が生じたときには連絡して解決に取り組んでいる。メールなどの連絡事項には直ぐに返信するようにしている。運営推進会議の議事録等提出物もすぐに提出するよう心掛けている。	運営推進会議以外にも、地域包括支援センター職員から、地域の高齢者に関する相談を受けるなど、連携を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強い利用者がおられ、町中にある為に交通安全の観点からも玄関の内部からの施錠は行っている。	身体拘束のない暮らしの支援に努めている。玄関のカギについては、街中にあり、車の往来が激しいため、内部からかけているが、外に出たい様子が見られれば、声をかけ外に出かけている。	法人内で拘束委員会を立ち上げ、「そもそも拘束とは」から始まるマニュアルづくりと研修会実施について取り組んでいる。今後は、事業所として、事業所の利用者一人ひとりに照らし合わせた抑圧感のない支援方法を確認し合うことが期待される。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の申し送りやカンファレンスにおいてその都度話す機会を設けている。毎日の職員の気づきを重視し、利用者の皮膚等身体的に異常が無いが、職員が互いに注意している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と主任は、必要性のあるご家族には成年後見人制度を紹介、支援している。ほかの職員はそこまで気が回らないのが現状。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書と重要事項説明書の内容を詳細に説明を行い、最後に不明な点や質問事項にお答えし、理解して頂けるまで説明を行っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置しているが投稿は無い。家族の面会時に利用者の状態や状況を報告し要望を聞いている。又契約時に、苦情・相談窓口の説明も行っている。	利用者からは出張パン屋さんの訪問日の提案などがあり、家族からは職員の声の大きさについての意見などがあり、それらの提案や意見を事業所の運営やサービス向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催のカンファレンスやその都度職員の話をしている。それを毎月開催の管理者会議において職員の意見や要望等を代表者に伝え改善につなげている。	家族から「鏡開きには餅を食べさせたい」との要望があり、利用者の嚙下状態を考慮して、白玉団子に替えたかどうかと話し合うなど、職員の意見や提案を運営に反映させる体制をつくっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回実施して、自己評価を行っている。しかし、職場の環境・条件の整備が統一化されていない為に個人の目標の設定やモチベーションが低下し、楽な方へと流れているように感じる。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体研修やグループホーム部会の研修に積極的に参加している。又自社での初任者研修や本年度より推薦機関の実務者研修にも未経験の職員に働きながら受講してもらっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者や主任はグループホーム協会や県、市開催の研修に参加し知り得た情報をサービスに活かしているが、他の職員の外部研修参加の機会が少なく交流の場がもててない。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接から入居してからのアセスメントを通じ、本人にとって必要な取組みを考え、本人が心地よい環境作りを心がけ、家族との連絡の仲介もしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申込より面接から契約に至る間、グループホームでの生活の疑問や不安や要望等を伺い家族が安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、何を必要とされているのかに基づき要望などの情報を収集してアセスメントを行ない、ケアプランを作成実行している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭での生活の延長を目指し、生活スタイルを見極め、得手不得手を見極め、出来る事に目を向けた介護をし、馴染みの関係作りを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時などに家族の話を傾聴したり、毎月の行事等の写真やひだまり街なか通信での状況報告をお送りし返信のお手紙をもらったりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	家族や親戚の方や知人などの面会の際は、居室にてゆっくりお話できるように、又継続的に訪問して頂ける様に心掛けている。	昔からの友人の訪問や馴染みの理髪店に家族と出かけている。また、桜は千保川沿いなど、懐かしい場所への外出も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や健康状態を考慮しながら座席を考たりする。またトラブルが生じた時は、直ぐに職員が間に入るなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今までの生活内容の情報提供や相談業務を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話の中で、本人の思いや何をしたいかなど聞かれた場合、個別で対応できる事は出来るだけ実施するようにしている。意思疎通が困難な方に対しても、本人の生活歴や性格・言動に留意し思いを推し量る努力をしている。	利用者の思いや意向を把握するため、研修会に参加し手法を身につけている。特に、利用者の言葉にしづらい思いを日々の支援の中で、表情や仕草に留意して把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報を把握し又、入居後家族から得た新たな情報なども職員が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを使用し時間の経過ごとに観察した本人の心身の状態や変化等を記録し、職員が情報を共有できるようにしている。特変事項や連絡事項等は、日誌に記載し情報が共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討が必要な課題やケアのあり方については、カンファレンスを開催し話し合いを行っている。本人の意向や家族の意見等必要な場合は、開催前に確認している。	介護計画の役割が全職員に理解されていなかったため、利用者ごとに担当者を決め、日々のモニタリングにつなげている。カンファレンスでは、家族の要望や職員の提案などをもとに、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを使用し利用者ごとに個別で日々の様子や気づいた事、支援内容など記録している。ケアの実施はケアプラン実施表でもチェックしている。適切な記録ができているか、チェックしその都度、指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、アセスメントを行い特別な事に関しては、出来る事と出来ない事を十分に検討しサービス提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所が提供できるサービスだけにとらわれず、施設の生活であっても、本人の生活の質の向上を目指し、様々な地域資源を活用していく事を検討している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的受診は、基本家族支援だが、ご家族が困難な場合や急変時などはご家族と話し合い医療機関への連絡や職員で受診付き添いなど行っている。ご家族が受診に行かれる際、日頃の様子を伝えたり主治医に提出できるように健康管理表を渡している。	入居前のかかりつけ医に出かけての受診は、家族に同行してもらっている。また、それぞれのかかりつけ医（複数名）による訪問診療の体制もつくり、本人及び家族の希望に沿っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師の勤務がある日、各利用者の状態報告や特変あったこと、現在対応している事等その都度報告している。出勤できない時でも看護師の意見や指示がほしい場合は、管理者が連絡を取っている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された場合、直接病院を訪問し口頭と書面で情報（フェイスシートや健康管理表・介護保険情報など）を提供している。退院時は入院情報が把握できるように看護サマリーや診療情報提供書を医療機関へ依頼している。</p>			
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、重度化した場合の状況については本人の状態に応じて必要で可能なサービスは提供していくが、区分変更申請も検討させていただき事を説明している。終末期のあり方(看取りケア)においては事態に応じてご家族や主治医・訪問看護師と協議しながら検討していく事を説明している。</p>	<p>本人や家族の希望に沿って、可能な限り支援することとしているが、医療的な処置には対応出来ないことを入居時から説明している。状態に変化が見られれば、早めに医師や訪問看護師の意見をもとに、家族と相談を重ね、今後の方針を共有している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時は管理者へ連絡し指示を仰ぐ事になっている。応急手当や初期対応については、社内研修などで学んでいる。</p>			
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な避難訓練は実施している。地域の防災訓練にも参加し連携に努めているが経験年数の浅い職員は身につけていない。火災以外の災害に対する防災マニュアル(特に水害)を策定中である。</p>	<p>課題としていた夜間想定避難訓練を実施し、消防署の助言を得ている。また、屋外避難階段の冬場の除雪などを行い、避難経路の確保に努めている。</p>	<p>運営推進会議で、水害時の避難方法について助言があり、消防署や市の担当者と相談しながら水害対策マニュアルを策定中であるが、策定後、水害を想定しての避難訓練を行うことが期待される。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フェイスシートを活用して、個人の生活歴や性格を理解したうえで対応を行っている。話を傾聴することで気持ちに寄り添う対応を心掛けている。特に排泄面での言葉掛けには、配慮を行っている。	利用者一人ひとりが歩んできた人生に敬意を払い、利用者の誇りや生活習慣を尊重した言葉かけや対応に努めている。また、相づちを上手く使いながら、本人の思いを受け止めるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を表現しやすいよう、マンツーマンでのコミュニケーションの時間も確保できるように配慮している。言語表現が難しい方には表情やしぐさから思いを汲み取れる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候の良い日は外気浴や散歩を希望される方もおられるので、その時々業務の振り分けを行いながら思いに寄り添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族様からおしゃれに関する好みを聞き対応している。昔から愛用している化粧品や小物を使う事で美への思いが持続できている様子である。入浴時の衣類はその時の気分に応じて自己選択、決定して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みに関しては、フェイスシートを活用して周知できるように努めている。選択食、ホーム喫茶の実施。個人の能力を見極め、その方が安全に作業できる様見守りを行いつつ、下ごしらえや盛り付け等もしていただいている。	春は竹の子ご飯、夏は鰻の蒲焼など、季節感を取り入れた献立を工夫している。また、同じ麺類でも蕎麦かうどんかを選んでもらうなど、食事を楽しむことのできる支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を一目で把握できるように健康記録表への記入を行っている。その時の体調や気分に応じて食事形態を変更する事もあり、栄養や水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	フロアの洗面台を使い、自分で出来る範囲の歯磨きをして頂いている。その後必要な時は、その方に応じた物品を使って口腔ケア介助を行う事で清潔保持が出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の情報を共有し、介助の仕方を統一することで不快な思いを感じないように配慮している。尿便意の瞬目な方の行動、しぐさを観察し適宜トイレ誘導を行い、排泄を見守っている。	一人ひとりの状態を把握し、声かけのタイミングや自尊心を大切に言葉を選ぶよう心がけ、排泄の自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取量の把握に努めている。体操や軽運動の実施。食前の白湯や牛乳等も提供している。常時便秘ぎみの方には整腸剤の服用も併用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日は決めてあるものの本人の体調や気分、又希望に応じて調整している。入浴時間帯や順番についても希望に応じている。安心して入浴しリラックス出来るよう配慮している。	機械浴と普通浴を備え、利用者の体調に合わせ、安全・安心に配慮した入浴支援に努めている。お湯に浸かり「気持ちいいわあ」と職員と会話をするなど、入浴を楽しんでもらえる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況に応じて静養の時間を設けている。室温や明るさ、音に配慮し快適に眠れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を一つのファイルにまとめ直ぐに見れる場所で管理している。薬剤の変更や注意事項は連絡ノートや業務日誌で情報を共有している。個人記録にて症状の変化を把握出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事を企画してメリハリのある生活を心掛けている。気分転換出来ている様子である。日常生活の中では、一人一人の出来る事を理解し役割を持って楽しく過ごして頂ける様に配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所までの散歩や外気浴等一人一人の希望にそって支援している。又会話の中で本人の思いや希望を把握して、家族様の面会時に伝えている。負担の掛からないよう配慮することで出来る範囲での協力を頂いている。	近くの神社まで散歩したり、天候を見て、おとぎの森公園などに出かけている。また、テラスに出て、お花や野菜に水をやり、サラダに使うきゅうりなどを収穫している。夢の平コスモスウォッチングに出かけ、咲き誇る花々に感嘆するなど、楽しみごとのドライブも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方の金銭管理は難しく思われる。お金の所持は原則していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は、用事がある際に連絡を取り合っておられる。その他の方々は希望があれば、電話や手紙の取次ぎを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で静養されている時間帯には、テレビの音量等で妨げにならないよう配慮を行うことで一人ひとりが落ち着ける心地よい空間となっている。又季節感を味わって頂ける様に作品や展示物も工夫している。	温度は、利用者に合わせて調節している。また、室内が乾燥しないようホールでタオルを干すなど、生活感を取り入れながら空調に配慮している。職員が持ってきた芍薬の花などを飾り、季節に合わせた塗り絵を楽しむなど、和やかな共用空間をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でコミュニケーションが取れるようフロア席の配慮を行っている。又、自席以外にも座り心地が良く独りでリラックス出来るソファも設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族様の思い入れのある物を持参して頂き、居心地が良く落ち着ける空間作りに努めている。又掃除の後には定位置管理をし、混乱せずに生活できるよう配慮している。	母の日のプレゼントのカーネーションなどを飾り、また、使い慣れた椅子や亡き妻の数珠を遺影の前に置くなど、一人ひとりが落ち着いて過ごせる居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には貼り紙をして一目で認識できるようにしている。又通路や居室内にも障害物になるようなものは置かないよう環境整備に努めている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひだまり街なか
作成日 平成30年 6月26日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念に書かれている意義を職員全員が理解出来ておらず、日々のケアにつながっていない。	職員1人1人が理念に書かれている意義を理解し、日々のケアにつなげる。	朝と夕の申し送りの時に、理念を復唱し意識付けを徹底する。利用者様1人1人に当てはめて考える機会を増やす。	3ヶ月
2	6	事業所として、利用者1人ひとりに照らし合わせた抑圧感のない支援方法の確立。	事業所内でも、「そもそも拘束とは」を再度考え直し、現在も行っている身体拘束をしないケアの実践を継続する。理念に沿った支援を徹底する。	法人内の拘束委員会での内容を職員に周知徹底する。事業所内でも拘束の研修会を行う。また利用者一人ひとりに照らし合わせた抑圧感のない支援方法を確立する。	1年
3	35	水害を想定した避難訓練がされてない。	地域にあった水害時のマニュアルの修正策定を早期に進め、訓練の実施。	地域自治会、高岡市の担当と協議してマニュアルの作成を進め、避難訓練を行う。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。